

1. 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>九州大学農学部生物資源環境学科は、生物生産、生物機能、生物環境等に関連する学問諸分野において、国際的に通用する専門性と技術を有するばかりでなく、豊かな課題探究能力とバランス感覚を備えた多様な人材の育成を目指して、教育研究活動を展開している。このような教育の目的に則り、以下の教育目標を達成した者に、学士（農学）の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 生物・化学・物理の基礎的知識を身につけ、その応用力を修得すること。◆ 自然科学、特に専攻する分野に関する<u>感性</u>を高め、諸問題の解決能力を身につけること。◆ 研究者、実務者としての能力を育成し、多様な分野で活躍できる専門職業人としての基礎的能力を育むこと。 <p>特に、生物資源生産科学コース生物生産環境工学分野では、農業・農村環境の再生，創出，保全に向けた教育を視野に，土，水，気象に関する自然・社会科学の基礎学を修得させ，安定した食料供給に資する生産基盤の持続的な開発，保全，管理，及び自然環境と調和した物質循環型の農村空間の創出に関わる人材を養成している．このような教育方針に則り，生物生産環境工学分野では特に下記のような技術者の育成を目指す。</p> <p>○高い専門性と技術力を有するとともに，多様な現代社会において高度な問題解決能力を具備し，特に指導的な立場で活躍できる生物生産環境工学技術者の育成</p> <p>○新しい科学技術を吸収・深化させる能力，社会人・職業人として多様な文化の存在と現代社会の抱える諸問題を客観的に理解できる能力や問題発見・解決能力ならびにプレゼンテーション能力を備えた生物生産環境工学技術者の育成</p> <p>○九州大学農学部の建学の精神である『わが国の西南暖地農業』，『中国大陸農業』ならびに『熱帯地域農業』，現在の九州大学教育憲章にも謳われている『アジア』を明確に意識し，国際的に通用する生物生</p>
--------------	---

	<p>産環境工学技術者の育成</p> <p>具体的には、次の学修目標の達成に向けた学位プログラムを提供している。</p>
参照基準	<p>日本技術者教育認定基準「共通基準」「個別基準〔農学一般及び関連のエンジニアリング分野〕」（2019年度～）</p> <p>https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf</p>
学修目標	<p>A 主体的学び・協学：問題発見・解決能力ならびにプレゼンテーション能力</p> <p>A1 課題を設定し、実行計画を立てるとともに、それを遂行する能力</p> <p>A2 課題への取り組みを自主的、継続的に遂行する能力</p> <p>A3 課題への取り組み結果をまとめて発表する能力</p> <p>B 知識・理解</p> <p>B1 数学、自然科学などの基礎学力の修得と新しい科学技術を吸収・深化させる能力</p> <p>B2 多様な文化の存在と現代社会の抱える諸問題を客観的に理解できる能力</p> <p>C 技能（C1 専門的能力）：生物生産環境工学技術者として必要な知識・技術の修得</p> <p>C1-1 農業農村工学・農業環境工学領域の専門基礎の理解</p> <p>C1-2 農業農村工学・農業環境工学領域の応用的な専門の理解</p> <p>C1-3 実験や調査の計画・実行，データ解析およびレポート作成の能力</p> <p>C 技能（C2 統合・創造能力）：社会人・職業人として必要な知識・技術の修得</p> <p>C2-1 遵守しなければならない技術者倫理の理解</p> <p>C2-2 責任と義務を共有し，効果的にチーム活動ができる能力</p> <p>C2-3 英語を主とした語学力ならびにコミュニケーション能力</p> <p>C2-4 情報処理技術の修得</p> <p>D 実践：グローバルな社会の中で，特に九州地域やアジアモンスーン地域における農業の展開に係る生物生産環境工学技術者の役割を認識できる能力</p> <p>※生物生産環境工学分野の学修目標の A2 は，全学共通の学修目標「A-1.（主体的な学び）深い専門的知識と豊かな教養を背景とし，自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。」に相当する。また，生物生産環境工学分野の学修目標の C2-2 は，全学共通の学修目標「A-2.（協働）多様な知の交流を行い，他者と協働し問題解決にあたることができる。」に相当する。</p>

2. 新カリキュラム・ポリシー

A 主体的学び・協学 (問題発見・解決能力ならびにプレゼンテーション能力)	
A1 課題を設定し、実行計画を立てるとともに、それを遂行する能力	課題を見つけ、種々の科学、技術および情報を総合して実行計画を立て、与えられた制約下でこれを実行する能力を評価する。具体的には、下記科目を修得していることにより、当該目標を達成したと評価する。 【基幹教育】 基幹教育セミナー，課題協学科目 【専攻教育】 地域環境問題演習，卒業研究
A2 課題への取り組みを自主的、継続的に遂行する能力	課題解決に必要な科学、技術および情報を自ら取捨選択し、自主的、継続的に取り組みを遂行する能力を評価する。具体的には、下記科目を修得していることにより、当該目標を達成したと評価する。 【基幹教育】 基幹教育セミナー，課題協学科目 【専攻教育】 地域環境問題演習，卒業研究
A3 課題への取り組み結果をまとめて発表する能力	与えられた制約下で課題への取り組み結果をまとめ、これを論理的に文書化するとともに、効果的にプレゼンテーションする能力を評価する。具体的には、下記科目を修得していることにより、当該目標を達成したと評価する。 【基幹教育】 基幹教育セミナー，課題協学科目 【専攻教育】 地域環境問題演習，卒業研究卒業研究
B 知識・理解	
B1 数学、自然科学などの基礎学力の修得と新しい科学技術を吸収・深化させる能力	数学、自然科学などの学問分野において、農業農村工学・農業環境工学領域に関わる専門科目の授業が理解できるレベルの基礎学力を身につけるとともに、新しい科学技術を抵抗無く受け入れ、これを応用できる基礎能力を評価する。具体的には、下記科目を修得していることにより、当該目標を達成したと評価する。 【基幹教育】 微分積分学，線形代数，無機物質化学，有機物質化学，細胞生物学，集団生物学，情報科学，自然科学総合実験，物理学概論 A・B もしくは基幹物理学 IA・IB，理系ディシプリン科目・選択必修科目（6単位） 【専攻教育】 物理数学，数値解析学，回帰分析入門，気象学，環境分析化学
B2 多様な文化の存在と現代社会の抱える諸問	多様な文化や価値観が存在する複雑な現代社会における実務上の諸問題を、先入観にとらわれず客観的、多面的に理解し判断できる能力を評価する。具体的には、下記の主要科目を修得していることにより、当該目標を達成した

題を客観的に理解できる能力	と評価する。 【 基幹教育 】文系ディシプリン科目（4単位），高年次基幹教育科目（2単位）
C1 技能／専門的能力 （生物生産環境工学技術者として必要な知識・技術の修得）	
C1-1 農業農村工学・農業環境工学領域の専門基礎の理解	デザイン能力育成の大前提となる土，水，気象，基盤，環境，食料生産に関連した基礎学力を評価する。具体的には，下記科目を修得していることにより，当該目標を達成したと評価する。 【 専攻教育 】灌漑工学，水環境工学，農地環境工学，土壌学，気象学，農業情報学，生物生産環境工学概論，水理学Ⅰ，土質理工学Ⅰ，農村計画学概論，土壌物理学，農業気象学，環境分析化学，地理空間情報解析学，地理空間情報解析学実習，生物生産環境工学実験Ⅰ，生物生産環境工学実験Ⅱ，農業実習Ⅴ，卒業研究
C1-2 農業農村工学・農業環境工学領域の応用的な専門的理解	実務上の諸問題を解決する際に必須となる土，水，気象，基盤，環境，生物生産に関連した応用的な専門知識，技術を評価する。具体的には，下記科目を修得していることにより，当該目標を達成したと評価する。 【 専攻教育 】卒業研究，生物生産環境工学分野選択必修科目（8単位）
C1-3 実験や調査の計画・実行，データ解析およびレポート作成の能力	実務上の問題点と課題の理解に資する実験または調査を計画・実行するとともに，データを正確に解析・考察し，かつ説明できる能力を評価する。具体的には，下記科目を修得していることにより，当該目標を達成したと評価する。 【 基幹教育 】自然科学総合実験 【 専攻教育 】地理空間情報解析学実習，生物生産環境工学実験Ⅰ，生物生産環境工学実験Ⅱ 卒業研究
C2 技能／統合・創造能力 （社会人・職業人として必要な知識・技術の修得）	
C2-1 遵守しなければならない技術者倫理の理解	技術が社会や自然に及ぼす影響を理解し，安全性や技術者の責任（遵守すべき倫理や法）について自分の考えを述べることを評価する。具体的には，下記科目を修得していることにより，当該目標を達成したと評価する。 【 基幹教育 】サイバーセキュリティ基礎論 【 専攻教育 】技術者倫理

<p>C2-2 責任と義務を共有し、効果的にチーム活動ができる能力</p>	<p>与えられた制約の中でチームの一員として計画的に共同作業を進め、結果をまとめる能力を評価する。具体的には、下記科目を修得していることにより、当該目標を達成したと評価する。</p> <p>【基幹教育】 自然科学総合実験</p> <p>【専攻教育】 地理空間情報解析学実習, 生物生産環境工学実験 I, 生物生産環境工学実験 II,</p> <p style="text-align: center;">農場実習 V</p>
<p>C2-3 英語を主とした語学力ならびにコミュニケーション能力</p>	<p>英語を主としたコミュニケーションの基礎能力（英語によるプレゼンテーション能力）と英語で書かれた技術資料の調査能力の向上度を評価する。具体的には、下記科目を修得していることにより、当該目標を達成したと評価する。</p> <p>【基幹教育】 第一外国語, 第二外国語,</p> <p>【専攻教育】 科学英語</p>
<p>C2-4 情報処理技術の修得</p>	<p>端末機器の文書作成・計算ソフトや電子メールの利用法, インターネット等の情報閲覧方法, プログラミング言語の利用法に関する基礎能力を評価する。具体的には、下記科目を修得していることにより、当該目標を達成したと評価する。</p> <p>【基幹教育】 情報科学, サイバーセキュリティー基礎論</p> <p>【専攻教育】 数値解析学, 回帰分析入門, 生物生産環境工学実験 I, 生物生産環境工学実験 II</p>
<p>D 実践： グローバルな社会の中で、特に九州地域やアジアモンスーン地域における農業の展開に係る生物生産環境工学技術者の役割を認識できる能力</p>	
<p>“本学の地理的特性から九州・沖縄地域やアジアモンスーン地域を対象に、地球的な視点から技術者の役割を多面的に理解できる基礎能力を評価する。具体的には、下記科目を修得していることにより、当該目標を達成したと評価する。</p> <p>〔専攻教育〕卒業研究, 農場実習 V, 灌漑工学, 水環境工学, 農地環境工学, 土壌学, 農業気象学”</p>	
<p>大学院連携科目</p>	
<p>自然科学を主体とする生物生産環境工学における幅広い学問分野における諸問題の解決法や実社会との関連を視野にいれた講義、実習を基盤として、大学院連携科目ではそれらを発展的に考える大学院コア科目の内、特に将来的に必要と思われる科目の修得を推奨する。</p>	

<継続的な教育点検改善システムについて（内部質保証）>

生物生産環境工学分野では、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた教育プログラムを実施しており、教育プログラムの継続的な点検改善のために、教員、学生および学外の卒業生で構成されている各種委員会とその連携ネットワークが構築されている。生物生産環境工学分野の教育を担当する教員全員で構成される「分野を考える会」を中心にして、学生や学外卒業生の参画も得て、合計 11 の各種委員会がプログラム内に設置されており、有機的な連携の下、プログラムの点検と改善が継続的に進められている。

各種委員会からの報告に基づき、「分野を考える会」でプログラムの点検と改善が議論され、その検討内容は各種委員会にフィードバックされるとともに、適宜、「学部教育評価委員会」に報告される。

<教員委員のみで構成される委員会>

○分野を考える会（JABEE 教育プログラム検討委員会）：分野教育全般についての検討

○教育プログラム自己点検委員会：自己点検の総括

○学習・教育到達目標整備・点検委員会：教育目標の設定・点検，カリキュラムの作成

○教育内容点検・改善委員会：シラバスの作成，ポートフォリオ，具体的な教育の実施と教育効果の改善・点検

○教育環境検討委員会：教育環境の点検と整備

○資料整備委員会：自己点検関係資料の整備

○生物生産環境工学プログラム修了判定委員会：修了生の学習・教育到達目標達成の確認・認定

<教員委員と学生委員で構成される委員会>

○教育改善委員会：授業改善への学生の意見・要望の反映

<教員委員と外部委員で構成される委員会>

○教育改善外部委員会：外部からの教育改善

<教員委員と学生委員，外部委員で構成される委員会>

○教育貢献賞選考委員会：教育貢献賞（優秀賞・研鑽賞・奨励賞）受賞者の選考

<第3者委員で構成される委員会>

○生物生産環境工学プログラム外部評価委員会：生物生産環境工学プログラム全体の点検

《アセスメント・プラン》

3年後期終了時および4年後期終了時に別紙「アセスメント項目」のとおり評価を行

う。

3. 新アドミッション・ポリシー

求める学生像	<p>国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様な視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。</p> <p>農学部では、生物生産、生物機能、生物環境等の学問分野において専門性及び技術を習得し、課題解決能力と国際的視野を併せ持つ人材を育成することを主眼とした教育を行っている。そのために、農学部では以下のような学生を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none">・生物生産、生物機能、生物環境等の農学関連分野に強い関心を有し、将来これらの分野で活躍を目指す意欲的な学生を求めている。・農学部の教育・研究は、自然科学から社会科学にまで及ぶ広範な基礎科学と応用科学に立脚しているので、幅広い教養と専門的知識とともに修学できるバランス感覚を備えた学生を求めている。・国際的に活躍する土台となる高度な語学能力を持ち、自己の語学能力の向上に熱心な学生を求めている。
入学者選抜方法との関係	<p>①知識・技能：高等学校等における基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能。特に、大学での生物、化学、物理等の学習に必要な理系科目の十分な素養と基本的な英語力。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力：多面的に考え、客観的に批判し、自分の言葉で人に伝える資質。特に物事を理論的に把握する能力。</p> <p>③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度：生物生産、生物機能、生物環境等の農学関連分野への強い関心。多様性を尊重する態度、異なる考えに共感する寛容性。他人の意見を尊重しつつも積極的に議論する姿勢。</p>
入学者選抜方法との関係	「選抜方法に関する別表」参照

選抜方法に関する別表

	① 知識・技能	② 思考力・判断力・ 表現力等の能力	③ 主体性を持って 多様な人々と協 働して学ぶ態度
一般選抜	大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査	調査書
総合型選抜	大学入学共通テスト	小論文 個人面接	志望理由書 個人面接
国際型選抜	大学入学共通テスト 統一試験 (EJU, SAT, GC E 等)	個人面接	志望理由書 個人面接